

## 平成25年度 学内研究助成金 研究報告書

研究種目	<input checked="" type="checkbox"/> 奨励研究助成金	<input type="checkbox"/> 研究成果刊行助成金
	<input type="checkbox"/> 21世紀研究開発奨励金 (共同研究助成金)	<input type="checkbox"/> 21世紀教育開発奨励金 (教育推進研究助成金)
研究課題名	日本人英語学習者の明示的・暗示的統語知識の明確化及びスピーキング・ライティングとの関係について	
研究者所属・氏名	研究代表者：生物理工学部教養・基礎教育部門 坂田直樹	

### 1. 研究目的・内容

本研究は、①明示的統語知識調査課題、②暗示的統語知識調査課題、③ライティング課題、④スピーキング課題の4つの課題を通して、中級日本人英語学習者(大学生、以下「学習者」と表記)の持つ統語知識を明示的・暗示的知識の両面から明らかにし、ライティング・スピーキング能力との関係を把握することを目的とする。

### 2. 研究経過及び成果

#### 1. 概要

平成25年度については、本学部学生が高校在籍時に使用した教科書を素材としたコーパス(電子テキスト)を作成し、それを基に品詞、項構造の知識について、語彙サイズとの関連も含めて調査を行った。

#### 2. 教科書コーパスの作成

本学部学生への進学者を多く輩出する高校に対して、現在の学生が高校時代に使用した英語全科目の教科書名の調査依頼をし、結果を得られた大阪府・和歌山・兵庫県下8校で使用されている教科書を下にしたコーパスを作成した。今まで、高校教科書からコーパスを作成する場合、平均的に使用度が高い教科書を使用することが一般的であるが、今回の研究では、学生が過去に使用した確率が高いものを使用するということで、画期的な研究方法であると言える。

#### 3. 品詞、項構造の知識についての調査

2.の教科書コーパスから出されたデータに基づき、過去に経験した単語で頻度の高いものについて、その品詞、および項構造の知識を、学習者の語彙サイズ別に調査した。結果、名詞・動詞の品詞は、形容詞・副詞よりも獲得しやすいこと、また、SV、SVO、SVOOの構造は、SVC、SVOCの構造よりも獲得しやすいことが判明した。さらに、語彙サイズ別では、語彙サイズが大きいほど副詞の知識を持っていることが分かった。

#### 4. 結果の発表

以上の成果について、8月に福岡大学で行われるLET(外国語教育メディア学会)全国大会にて発表する。

### 3. 本研究と関連した今後の研究計画

#### **1. 調査**

目的・内容欄で述べている、ライティング・スピーキングの知識と統語知識の関係について、作文課題、インタビュー課題を通して明らかにしていく予定である。

#### **2. 結果の公表**

現在上がっている研究成果については、26年度に発表したのち、論文投稿を予定している。

### 4. 成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
外国語教育メディア学会	口頭	2014年8月5日(予定)